

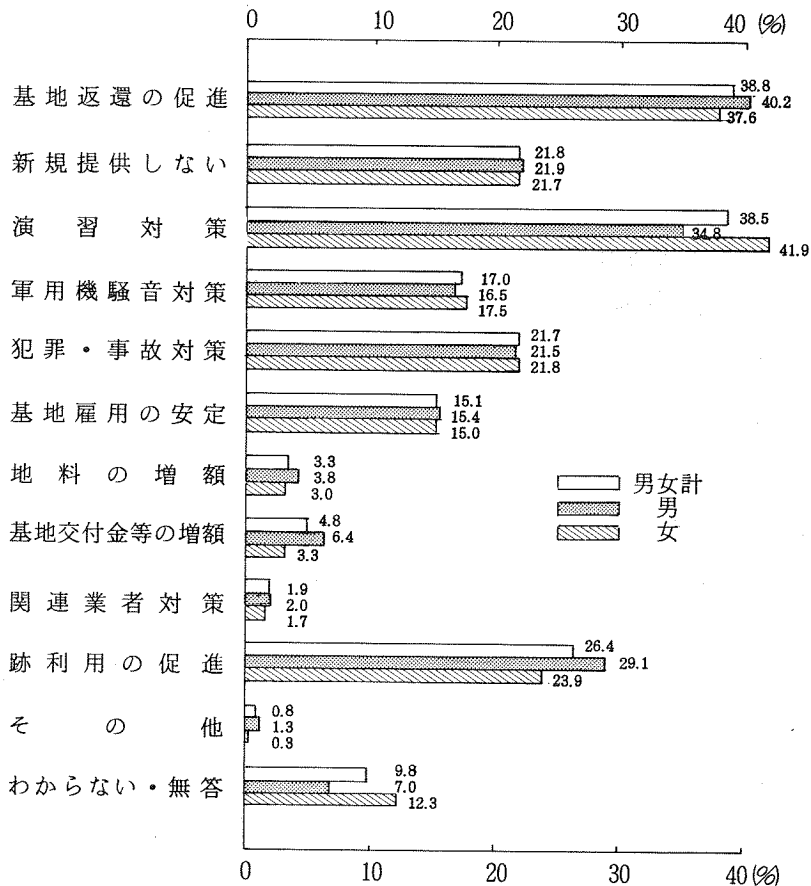
### 第3節 米軍基地に対するニーズ

米軍基地に関連して、とくに県や国に力を入れてほしいものについて、10項目から2項目選んでもらった結果は次のとおりである。

米軍基地に対するニーズの順位は、1位「基地返還の促進」(38.8%)、2位「演習対策」(38.5%)、3位「跡利用の促進」(26.4%)、4位「新規提供しない」(21.8%)、5位「犯罪・事故対策」(21.7%)、6位「軍用機騒音対策」(17.0%)、7位「基地雇用の安定」(15.1%)とつづき、「基地交付金等の増額」や「地料の増額」、「関連業者対策」は5%以下でニーズは少ない。

次に男女別にみると、ニーズの1,2位は男子と女子では逆になり、男子は1位「基地返還の促進」(40.2%)、2位「演習対策」(34.8%)、女子は逆に1位「演習対策」(41.9%)、2位「基地返還の促進」(37.6%)となり、また、そのニーズ度合も相当の差がみられる。ニーズの3位については男女とも「跡利用の促進」となっているが、そのニーズは男子が強い。4位以下については男女間では順位に一部相違がみられるが、ニーズ度合は「基地交付金等の増額」で男子6.4%、女子3.3%と差がみられる程度で、あまり変化はみられない。

米軍基地に対するニーズ



注) 2項目選択のため、各項目の合計は200%となる。

次に2項目組合せで、米軍基地に対するニーズをみると、最も多いのが「基地返還の促進」と「演習対策」の組合せで15.7%、次いで「基地返還の促進と跡利用の促進」9.4%、「演習対策と軍用機騒音対策」5.2%、「基地返還の促進と新規提供しない」5.0%とつづいている。このことを男女別にみると、1位の「基地返還の促進と演習対策」については男女とも15%台で、あまり差はみられないが、2位の「基地返還の促進と跡利用の促進」については男子が11.6%、女子が7.5%と男子のニーズが多い。3位以下については順位でも男女間で差がみられ、男子は「演習対策と軍用機騒音対策」（4.7%）より「基地返還の促進と新規提供しない」（5.3%）が上回って3位となっているが、女子は「演習対策と軍用機騒音対策」（5.7%）を3位とし、「基地返還の促進と新規提供しない」（4.7%）は「演習対策と犯罪、事故対策」（5.4%）や「新規提供しないことと演習対策」（5.2%）を下回って6位となり、男女間では米軍基地に対するニーズの色合いがいくぶん異なっていることを示している。

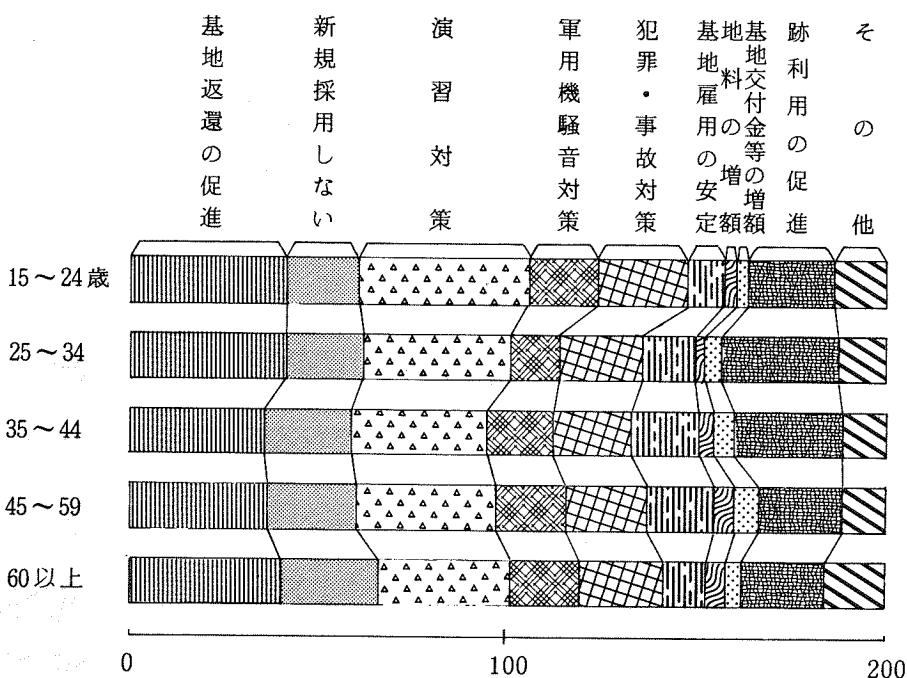
## 2項目組合せでみた米軍基地に対するニーズ

(単位：%)

	男女計	男	女
基地返還の促進と演習対策	15.7	15.5	15.9
基地返還の促進と跡利用の促進	9.4	11.6	7.5
演習対策と軍用機騒音対策	5.2	4.7	5.7
基地返還の促進と新規提供しない	5.0	5.3	4.7
新規提供しないことと演習対策	4.6	3.9	5.2
演習対策と犯罪、事故対策	4.5	3.6	5.4
新規提供しないことと跡利用の促進	3.7	3.4	4.0
演習対策と跡利用の促進	3.7	3.2	4.1
基地返還の促進と犯罪、事故対策	3.5	3.1	4.0
犯罪、事故対策と跡利用の促進	2.9	3.4	2.5
軍用機騒音対策と犯罪、事故対策	2.8	3.1	2.5
演習対策と基地雇用の安定	2.7	2.0	3.3
基地雇用の安定と跡利用の促進	2.6	2.5	2.6
犯罪、事故対策と基地雇用の安定	2.5	2.6	2.4
新規提供しないことと軍用機騒音対策	2.5	2.5	2.5
その他の組合せ	28.7	29.6	27.7
計	100.0	100.0	100.0

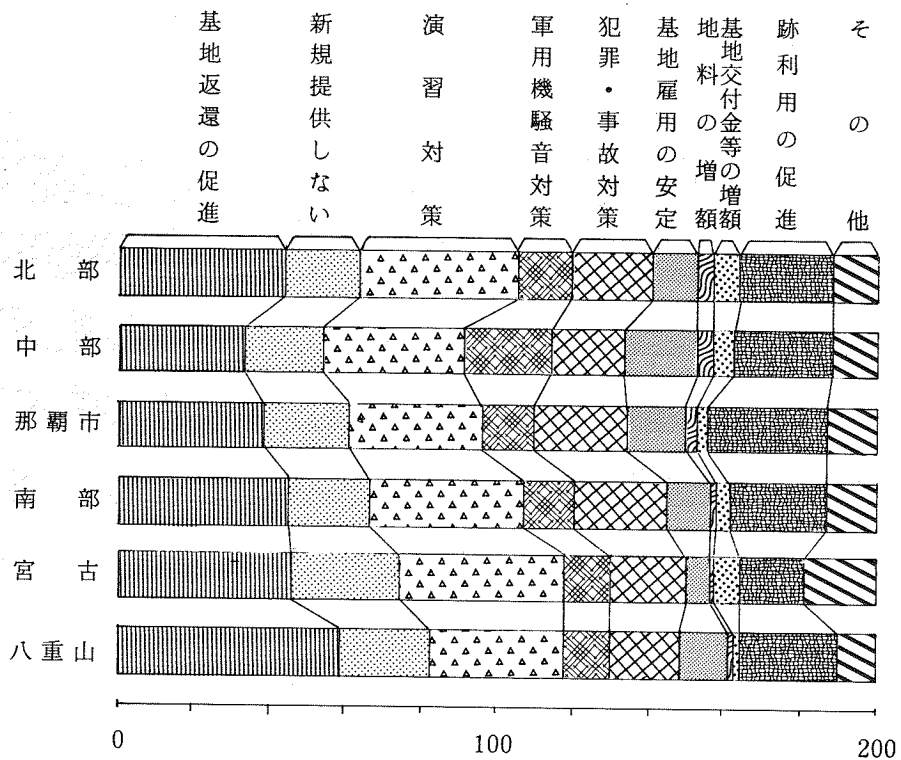
次に年齢別にみると、15～24歳と35～44歳、45～59歳は「演習対策」が1位、「基地返還の促進」が2位となっているが、25～34歳と60歳以上は逆に「基地返還の促進」が1位、「演習対策」が2位となり、年齢によってニーズの順位に差がみられる。3位については15～24歳が「犯罪・事故対策」、25～34歳と35～44歳が「跡利用の促進」、45～59歳と60歳以上が「新規提供しない」となり、年齢によって見方が一層異なってくる。このことを割合でみると、「基地返還の促進」については25～34歳のニーズが最も多く41.6%、35～44歳は35.5%と最も少ない状況にある。「演習対策」については15～24歳が最も多く45.2%、逆に60歳以上は34.8%と最も少なく、若年者と高齢者ではニーズに相当の差があることを示している。「跡利用の促進」については25～34歳が最も多く31.3%、次いで35～44歳28.9%となり、青少年層を中心にニーズが多い状況にある。また、「新規提供しない」については年齢が高くなるにしたがってニーズが増し、15～24歳の18.6%から60歳以上では25.5%となり、「基地雇用の安定」については35歳から59歳の年齢層においてニーズが多い状況にある。

年齢別にみた米軍基地に対するニーズ



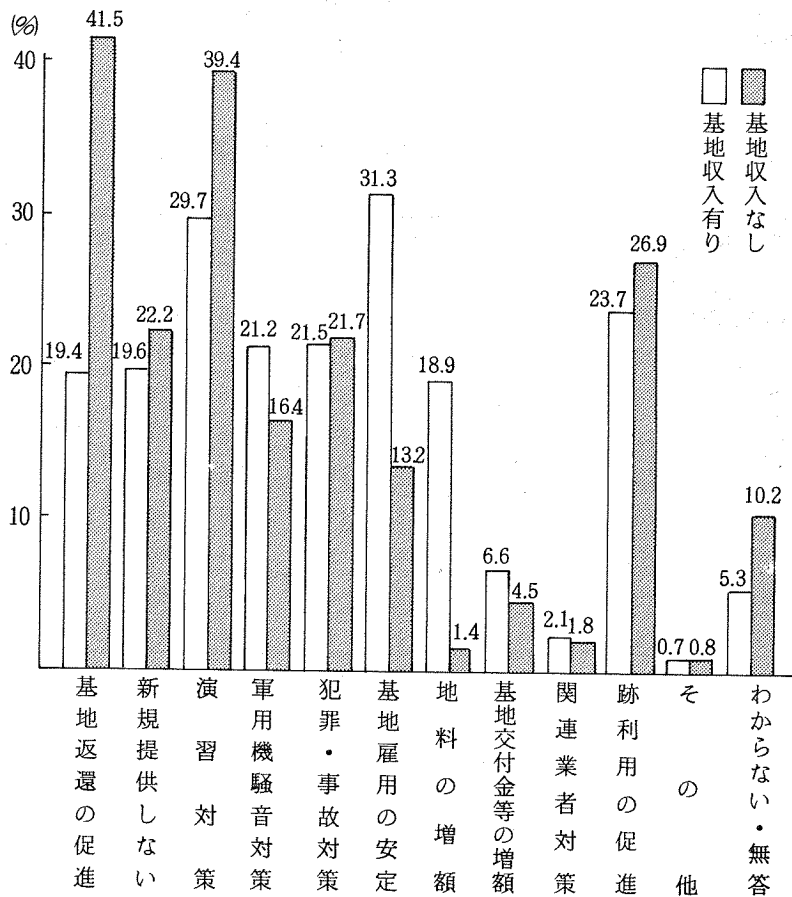
次に地区別にみると、中部以外では「基地返還の促進」が1位、「演習対策」が2位となっているが、中部においては逆に「演習対策」が1位、「基地返還の促進」は2位となっている。3位については宮古以外は「跡利用の促進」であるが、宮古においては「新規提供しない」が3位となり、「跡利用の促進」は5位に後退している。4位については中部が「軍用機騒音対策」、八重山が「新規提供しない」、他の地区は「犯罪、事故対策」となっている。このことを割合で見ると、「基地返還の促進」については八重山のニーズが最も多く58.7%、中部は32.8%と最も少ない。「演習対策」については宮古が最も多く43.2%、逆に那覇が35.4%と最も少ない。なお、中部においては「演習対策」が1位であったが、その割合は宮古をはじめ、北部、南部よりも少ない状況にある。「跡利用の促進」については那覇のニーズが最も多く31.1%、八重山は17.4%と最も少ない。「新規提供しない」については宮古が最も多く29.2%、北部が最も少なく19.6%、「犯罪、事故対策」については那覇が最も多く24.8%、八重山が最も少なく19.0%となっている。また、「軍用機騒音対策」については中部以外は11~14%台であるが、中部においては22.6%と突出し、「基地雇用の安定」、「地料の増額」についても中部のニーズが多く、米軍基地に対するニーズは基地をかかえている地区とそうでない地区では全体的に相違があることを示している。

地区別にみた米軍基地に対するニーズ



最後に基地収入の有無別にみると、まず、順位では基地収入のない場合は、1位「基地返還の促進」、2位「演習対策」、3位「跡利用の促進」、4位「新規提供しない」、5位「犯罪・事故対策」、6位「軍用機騒音対策」、7位「基地雇用の安定」とつづいているが、基地収入のある場合は、1位「基地雇用の安定」、2位「演習対策」、3位「跡利用の促進」、4位「犯罪・事故対策」、5位「軍用機騒音対策」、6位「新規提供しない」、7位「基地返還の促進」とつづき、両者に大きな違いがあることを示している。さらにこのことを割合でみると、「基地返還の促進」については基地収入なしの場合は41.5%となっているが、基地収入ありの場合は19.4%とそのニーズ度合は半分以下になっている。その他、基地収入なしが基地収入ありの割合を上回っている項目は「演習対策」、「跡利用の促進」、「新規提供しない」となっている。逆に基地収入ありが基地収入なしの割合を上回っている項目は「基地雇用の安定」、「地料の増額」、「軍用機騒音対策」、「基地交付金等の増額」で、特に「基地雇用の安定」は31.3%対13.2%、「地料の増額」は18.9%対1.4%と大きな開きがある。このように米軍基地に対するニーズは基地収入の有無によって相当な差があり、基地収入のある人の場合はより現実的な対応の仕方がみられる。

基地収入の有無別にみた米軍基地に対するニーズ



米軍基地に対するニーズ

(単位：人，%)

項目	性別		男		女	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合
基地返還の促進	1,497	38.8	736	40.2	761	37.6
新規提供しない	841	21.8	401	21.9	440	21.7
演習対策	1,484	38.5	636	34.8	848	41.9
軍用機騒音対策	657	17.0	302	16.5	355	17.5
犯罪・事故対策	836	21.7	394	21.5	442	21.8
基地雇用の安定	584	15.1	281	15.4	303	15.0
地料の増額	130	3.3	70	3.8	60	3.0
基地交付金等の増額	184	4.8	117	6.4	67	3.3
関連業者対策	72	1.9	37	2.0	35	1.7
跡利用の促進	1,017	26.4	532	29.1	485	23.9
その他	31	0.8	24	1.3	7	0.3
わからない	275	7.1	92	5.0	183	9.0
無答	102	2.6	36	2.0	66	3.3
計	3,855	200.0	1,829	200.0	2,026	200.0

注) 2項目選択のため実数の内訳は計の2倍となっている(以下同じ)。

年齢別にみた米軍基地に対するニーズ

項目	15～24歳		25～34歳		35～44歳		45～59歳		60歳以上	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
基地返還の促進	309	41.3	391	41.6	339	35.5	327	36.8	131	40.3
新規提供しない	139	18.6	190	20.2	222	23.3	207	23.3	83	25.5
演習対策	338	45.2	364	38.7	340	35.6	329	37.0	113	34.8
軍用機騒音対策	141	18.9	123	13.1	170	17.8	164	18.5	59	18.2
犯罪・事故対策	173	23.1	208	22.1	197	20.6	186	20.9	72	22.2
基地雇用の安定	78	10.4	130	13.8	176	18.4	163	18.4	37	11.4
地料の増額	20	2.7	18	1.9	32	3.4	42	4.7	18	5.5
基地交付金等の増額	25	3.3	43	4.6	47	4.9	57	6.4	12	3.7
関連業者対策	14	1.9	18	1.9	13	1.4	21	2.4	6	1.8
跡利用の促進	169	22.6	294	31.3	276	28.9	206	23.2	72	22.2
その他	7	0.9	14	1.5	5	0.5	2	0.2	3	0.9
わからない	61	8.2	65	6.9	67	7.0	50	5.6	32	9.8
無答	22	2.9	22	2.3	24	2.5	22	2.5	12	3.7
計	748	200.0	940	200.0	954	200.0	888	200.0	325	200.0

地区別にみた米軍基地に対するニーズ

(単位：人，%)

項目	北 部		中 部		那 覇 市		南 部		宮 古		八 重 山	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
基地返還の促進	203	43.7	511	32.8	163	38.2	275	44.6	107	45.3	74	58.7
新規提供しない	91	19.6	327	21.0	96	22.5	132	21.4	69	29.2	30	23.8
演習対策	193	41.6	586	37.7	151	35.4	255	41.3	102	43.2	45	35.7
軍用機騒音対策	65	14.0	352	22.6	58	13.6	80	13.0	29	12.3	14	11.1
犯罪・事故対策	100	21.6	305	19.6	106	24.8	148	24.0	47	19.9	24	19.0
基地雇用の安定	56	12.1	292	18.8	65	15.2	75	12.2	15	6.4	16	12.7
地料の増額	18	3.9	76	4.9	12	2.8	7	1.1	2	0.8	2	1.6
基地交付金等の増額	35	7.5	81	5.2	13	3.0	24	3.9	16	6.8	2	1.6
関連業者対策	15	3.2	25	1.6	7	1.6	10	1.6	7	3.0	1	0.8
跡利用の促進	113	24.4	409	26.3	133	31.1	156	25.3	41	17.4	32	25.4
その他	3	0.6	10	0.6	4	0.9	9	1.5	0	—	1	0.8
わからない	28	6.0	95	6.1	37	8.7	45	7.3	25	10.6	8	6.3
無 答	8	1.7	43	2.8	9	2.1	18	2.9	12	5.1	3	2.4
計	464	200.0	1,556	200.0	427	200.0	617	200.0	236	200.0	126	200.0

基地収入の有無別にみた米軍基地に対するニーズ

(単位：人，%)

項目	基地収入の有無		基地収入有り		基地収入無し	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合
基地返還の促進	85	19.4	1,359	41.5		
新規提供しない	86	19.6	726	22.2		
演習対策	130	29.7	1,291	39.4		
軍用機騒音対策	93	21.2	537	16.4		
犯罪・事故対策	94	21.5	711	21.7		
基地雇用の安定	137	31.3	432	13.2		
地料の増額	83	18.9	45	1.4		
基地交付金等の増額	29	6.6	147	4.5		
関連業者対策	9	2.1	60	1.8		
跡利用の促進	104	23.7	882	26.9		
その他	3	0.7	25	0.8		
わからない	18	4.1	244	7.5		
無 答	5	1.1	89	2.7		
計	438	200.0	3,274	200.0		

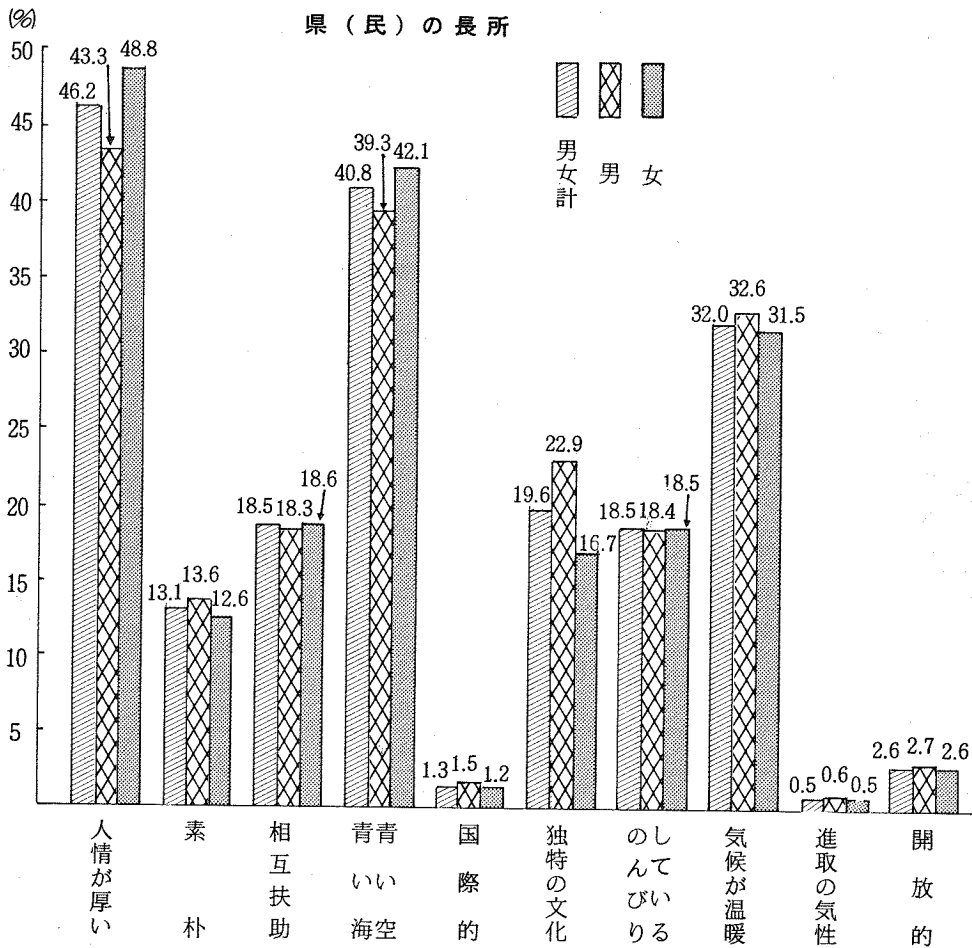
## 第4節 沖縄県（民）の長所・短所

### 1 沖縄県（民）の長所

沖縄県あるいは沖縄県民の良さは何であるか、10の事項から2つ選んでもらった結果は次のとおりである。

沖縄は人的にも自然的にも多くの良さを持っているとみられるが、沖縄県民が思っている沖縄の良さの第1位は人的面の「人情が厚い」（46.2%）、第2位は自然現象面の「青い海青い空」（40.8%）、第3位は同じく「気候が温暖」（32.0%）、第4位は「独特の文化」（19.6%）、第5位は「相互扶助」（18.5%）、第6位は「のんびりしている」（18.5%）、第7位は「素朴」（13.1%）となっている。また、「進取の気性」を有しているとか、「国際的」、「開放的」と思っている人は極めて少ない。

次に男女別にみると、「人情が厚い」と思っている人や「青い海青い空」がよいと思っいる人は男子より女子が多く、「独特の文化」があると思っいる人は逆に女子より男子が多い。また、「進取の気性」とか、「国際的」、「開放的」と思っいる人は男女とも極めて少ない。

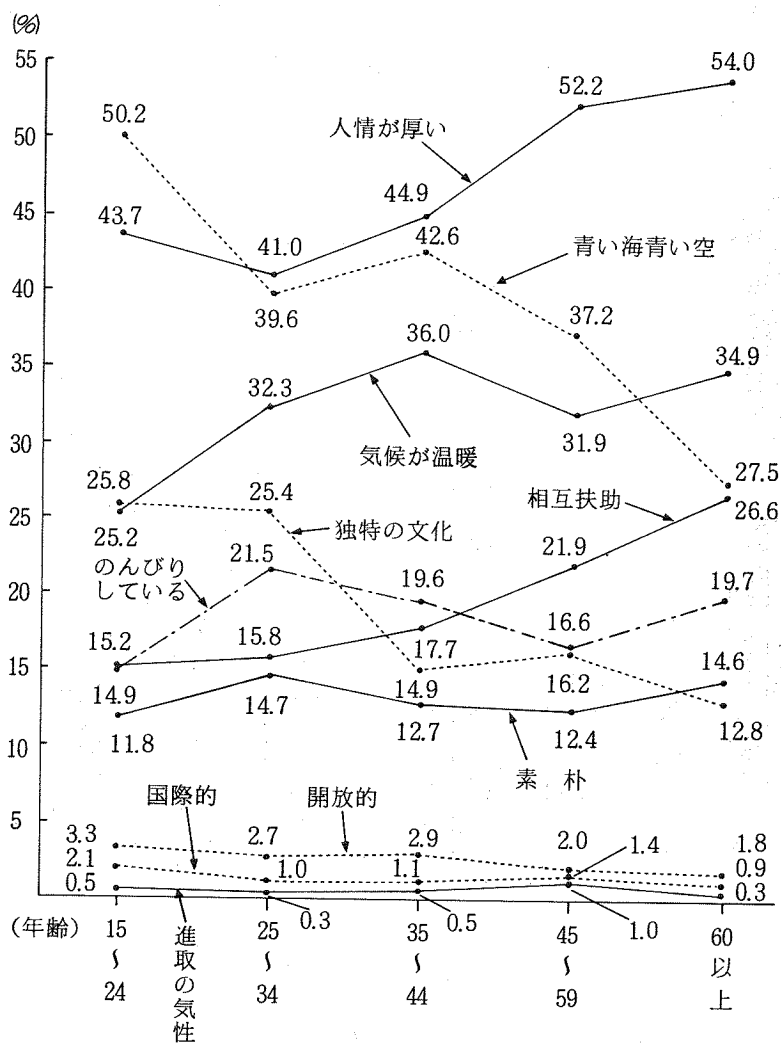


注) %は2項目選択のため延数である(以下同じ)。



次に年齢別にみると、「人情が厚い」は全体的には1位であったが、15～24歳においては「青い海青い空」が1位となり、「人情が厚い」は2位に後退している。また、「人情が厚い」と思っている人の割合は15～24歳においては43.7%、25～34歳においては41.0%であるが、45～59歳では52.2%、60歳以上では54.0%となり、若年層より高年層において「人情が厚い」と思っている人が多いことを示している。逆に「青い海青い空」については高年層より若年層において良いと思っている人が多く、15～24歳においては50.2%で1位、60歳以上においては27.5%で3位となっている。その他、年齢の高低によって、よりはっきりした変化がみられるのは「相互扶助」についてである。「相互扶助」については15～24歳においては15.2%であるが、年齢が高くなるにしたがって割合は上昇し、60歳以上においては26.6%となり、高年層ほど「相互扶助」があるとみている人が多い。また、「進取の気性」、「国際的」、「開放的」については各年齢とも極めて少ない。

年齢別にみた県（民）の長所

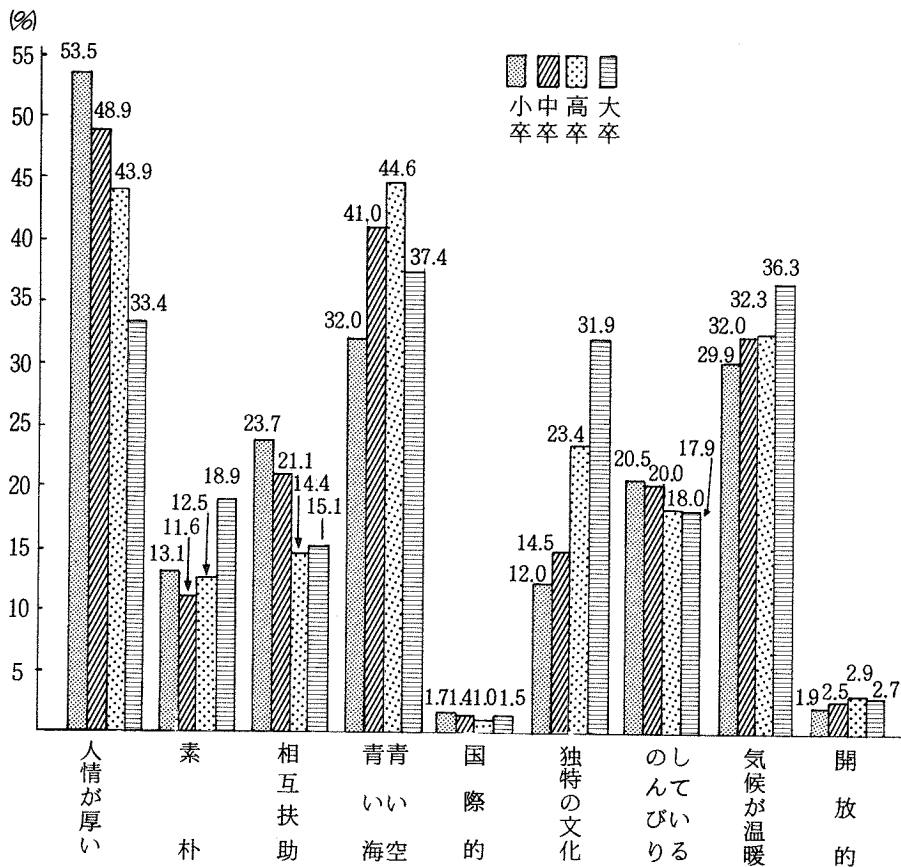


次に学歴別にみると、「人情が厚い」については小卒と中卒では第1位となっているが、高卒においては第2位、大卒においては第3位に後退している。「人情が厚い」と思っている人の割合をみると、小卒53.5%、中卒48.9%、高卒43.9%、大卒33.4%となり、高学歴になるにつれてその割合は低下している。なお、小卒の過半数が「人情が厚い」と思っているのは、小卒が高年層であるためとみられる。

また、高卒と大卒においては「青い海青い空」が「人情が厚い」を抜いて第1位となっているが、その割合は高卒の44.6%に対し大卒は37.4%と大きな差がみられ、大卒の割合は「青い海青い空」を第2位としている中卒の割合（41.0%）も下回っている。

また、学歴の相違によってはっきり差がみられるのが「独特の文化」についてである。「独特の文化」については、順位としては小卒では第7位、中卒では第6位、高卒と大卒では4位となっているが、割合では小卒12.0%、中卒14.5%、高卒23.4%、大卒31.9%となり、高学歴ほど「独特の文化」について重視している状況にある。その他、「気候が温暖」、「素朴」については大卒、「相互扶助」については小卒において割合が高いのが目立っている。なお、「進取の気性」、「国際的」、「開放的」と思っている人は各学歴とも極めて少ない。

学歴別にみた県（民）の長所



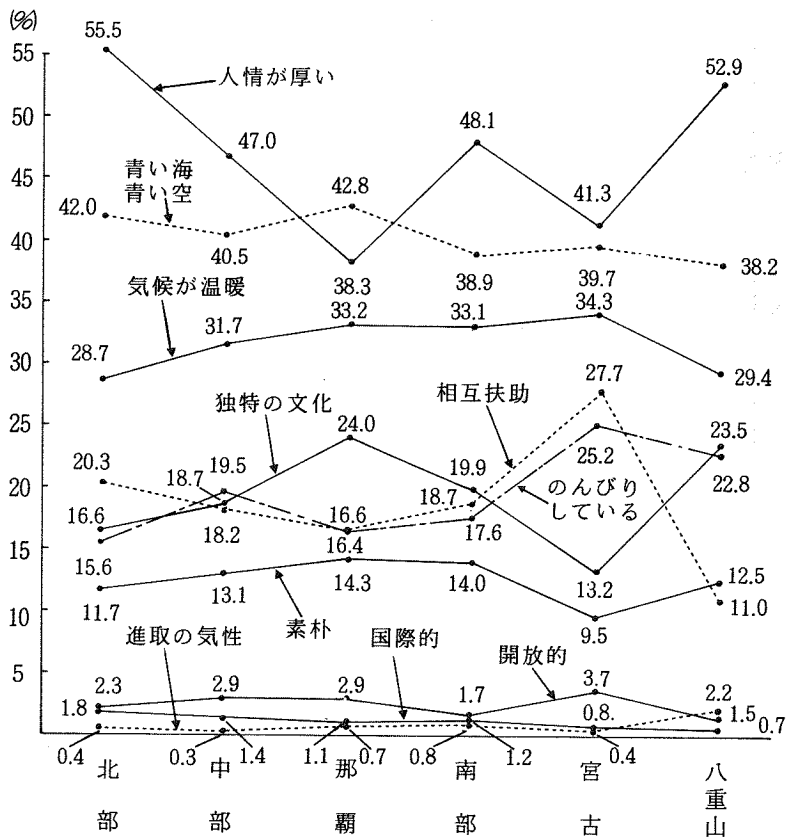
注) 「進取の気性」は小卒0.6%、中卒0.6%、高卒0.5%、大卒0.4%である。

次に地区別にみると、「人情が厚い」は那覇を除き各地区とも第1位となっているが、特にその割合は北部においては55.5%、八重山においては52.9%を示し、那覇の38.3%に対し、極めて高い比率となっており、地域によって「人情が厚い」に対する見方に相当の差があることを示している。また、那覇においては「人情が厚い」を抜いて「青い海青い空」が第1位となっているが、その割合は42.8%と北部の42.0%をわずかに上回る程度で、他の地区に比べ極めて高いという状況ではない。

その他、地区間で相当の差がみられるのは「相互扶助」、「独特の文化」、「のんびりしている」に対する見方である。「相互扶助」については宮古の割合が極めて高く27.7%、順位も4位となっているが、逆に八重山においては11.0%、順位も7位と大きな違いをみせている。「独特の文化」については那覇が最も高く24.0%（4位）、次いで八重山23.5%（4位）となっているが、宮古は13.2%（6位）と相当低い。「のんびりしている」については宮古が最も高く25.2%（5位）、次いで八重山22.8%（5位）、北部が最も低く15.6%（6位）となっている。また、「素朴」については宮古以外は10%台となっているが、宮古は9.5%と相対的に低い。

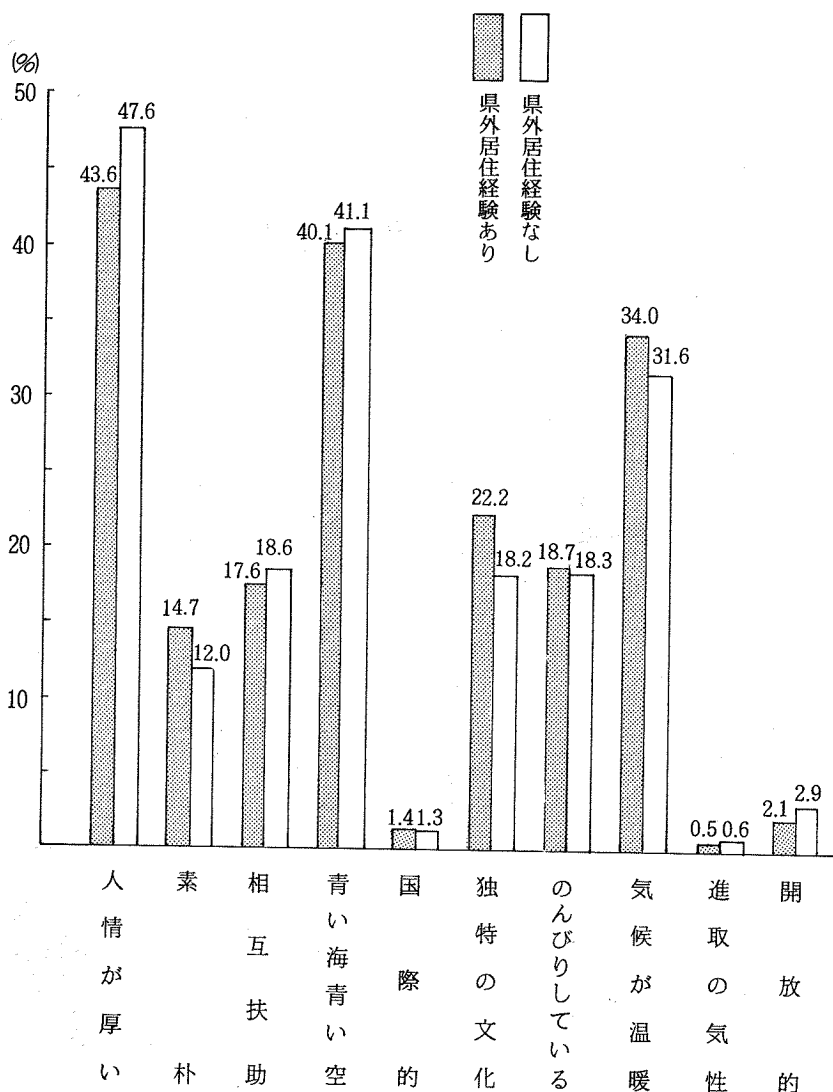
以上のように県（民）の長所の見方については地区間で相当の差がみられるが、特に宮古での変化が目立っている状況にある。

地区別にみた県（民）の長所



最後に、県外居住の経験の有無によって、沖縄の良さの見方に変化があるかどうかをみると、県外居住の経験の無い人は47.6%が「人情が厚い」とみているが、県外居住経験の有る人は43.6%とその割合は低下し、見方にいくぶん相違がみられる。また、「気候が温暖」については県外居住の経験の無い人は31.6%、有る人は34.0%と県外に居住した経験の有る人の評価がいくぶん高い。「独特の文化」についても県外居住の経験の有る人の評価が高く、経験の有る人は割合で22.2%、順位は4位、経験の無い人は、割合で18.2%、順位は6位となっている。その他、県外居住の経験の有る人は「素朴」についてもいくぶん評価が高く、逆に「相互扶助」についてはいくぶん評価が低い状況にある。なお、「進取の気性」、「国際的」、「開放的」については県外居住の経験の有無を問わず、沖縄の長所とみている人は極めて少ない。

県外居住経験有無別にみた県（民）の長所



県（民）の長所

(単位：人，%)

事 項	性 別		男		女	
	男	女	実 数	%	実 数	%
人 情 が 厚 い	1,853	46.2	824	43.3	1,029	48.8
素 朴	525	13.1	259	13.6	266	12.6
相 互 扶 助	742	18.5	349	18.3	393	18.6
青い海青い空	1,637	40.8	749	39.3	888	42.1
国 際 的	53	1.3	28	1.5	25	1.2
独 特 の 文 化	788	19.6	436	22.9	352	16.7
のんびりしている	741	18.5	350	18.4	391	18.5
気 候 が 温 暖	1,283	32.0	620	32.6	663	31.5
進 取 の 気 性	22	0.5	12	0.6	10	0.5
開 放 的	105	2.6	51	2.7	54	2.6
そ の 他	17	0.4	12	0.6	5	0.2
わ か ら な い	199	5.0	90	4.7	109	5.2
無 答	59	1.5	28	1.5	31	1.5
計	4,012	200.0	1,904	200.0	2,108	200.0

注) 2項目選択のため、実数の内訳は計の2倍となっている(以下同じ)。

年 齢 別 に み た 県 ( 民 ) の 長 所

(単位：人，%)

事 項	年 齢		15～24歳		25～34歳		35～44歳		45～59歳		60歳以上	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合		
人 情 が 厚 い	334	43.7	397	41.0	448	44.9	493	52.2	181	54.0		
素 朴	90	11.8	142	14.7	127	12.7	117	12.4	49	14.6		
相 互 扶 助	116	15.2	153	15.8	177	17.7	207	21.9	89	26.6		
青い海青い空	384	50.2	384	39.6	425	42.6	352	37.2	92	27.5		
国 際 的	16	2.1	10	1.0	11	1.1	13	1.4	3	0.9		
独 特 の 文 化	197	25.8	246	25.4	149	14.9	153	16.2	43	12.8		
のんびりしている	114	14.9	208	21.5	196	19.6	157	16.6	66	19.7		
気 候 が 温 暖	193	25.2	313	32.3	359	36.0	301	31.9	117	34.9		
進 取 の 気 性	4	0.5	3	0.3	5	0.5	9	1.0	1	0.3		
開 放 的	25	3.3	26	2.7	29	2.9	19	2.0	6	1.8		
そ の 他	6	0.8	4	0.4	4	0.4	2	0.2	1	0.3		
わ か ら な い	38	5.0	39	4.0	53	5.3	52	5.5	17	5.1		
無 答	13	1.7	13	1.3	13	1.3	15	1.6	5	1.5		
計	765	200.0	969	200.0	998	200.0	945	200.0	335	200.0		

学歴別にみた県（民）の長所

(単位：人，%)

事 項 \ 学 歴	小 卒		中 卒		高 卒		大 卒	
	実 数	割 合	実 数	割 合	実 数	割 合	実 数	割 合
人 情 が 厚 い	277	53.5	638	48.9	599	43.9	175	33.4
素 朴	68	13.1	151	11.6	171	12.5	99	18.9
相 互 扶 助	123	23.7	275	21.1	197	14.4	79	15.1
青 い 海 青 い 空	166	32.0	535	41.0	609	44.6	196	37.4
国 際 的	9	1.7	18	1.4	14	1.0	8	1.5
独 特 の 文 化	62	12.0	189	14.5	319	23.4	167	31.9
の ん び り し て い る	106	20.5	261	20.0	246	18.0	94	17.9
気 候 が 温 暖	155	29.9	417	32.0	440	32.3	190	36.3
進 取 の 気 性	3	0.6	8	0.6	7	0.5	2	0.4
開 放 的	10	1.9	33	2.5	40	2.9	14	2.7
そ の 他	2	0.4	1	0.1	9	0.7	2	0.4
わ か ら な い	39	7.5	67	5.1	58	4.3	17	3.2
無 答	16	3.1	15	1.2	19	1.4	5	1.0
計	518	200.0	1,304	200.0	1,364	200.0	524	200.0

地区別にみた県（民）の長所

(単位：人，%)

項目	北 部		中 部		那 覇 市		南 部		宮 古		八 重 山	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
人情が厚い	271	55.5	757	47.0	171	38.3	309	48.1	100	41.3	72	52.9
素朴	57	11.7	210	13.1	64	14.3	90	14.0	23	9.5	17	12.5
相互扶助	99	20.3	293	18.2	74	16.6	120	18.7	67	27.7	15	11.0
青い海青い空	205	42.0	652	40.5	191	42.8	250	38.9	96	39.7	52	38.2
国際的	9	1.8	23	1.4	5	1.1	8	1.2	2	0.8	1	0.7
独特の文化	81	16.6	301	18.7	107	24.0	128	19.9	32	13.2	32	23.5
のんびりしている	76	15.6	313	19.5	73	16.4	113	17.6	61	25.2	31	22.8
気候が温暖	140	28.7	510	31.7	148	33.2	213	33.1	83	34.3	40	29.4
進取の気性	2	0.4	5	0.3	3	0.7	5	0.8	1	0.4	3	2.2
開放的	11	2.3	46	2.9	13	2.9	11	1.7	9	3.7	2	1.5
その他	1	0.2	8	0.5	2	0.4	2	0.3	1	0.4	1	0.7
わからない	20	4.1	78	4.8	28	6.3	31	4.8	8	3.3	6	4.4
無答	4	0.8	22	1.4	13	2.9	6	0.9	1	0.4	—	—
計	488	200.0	1,609	200.0	446	200.0	643	200.0	242	200.0	136	200.0

県外居住経験の有無別にみた県（民）の長所

(単位：人，%)

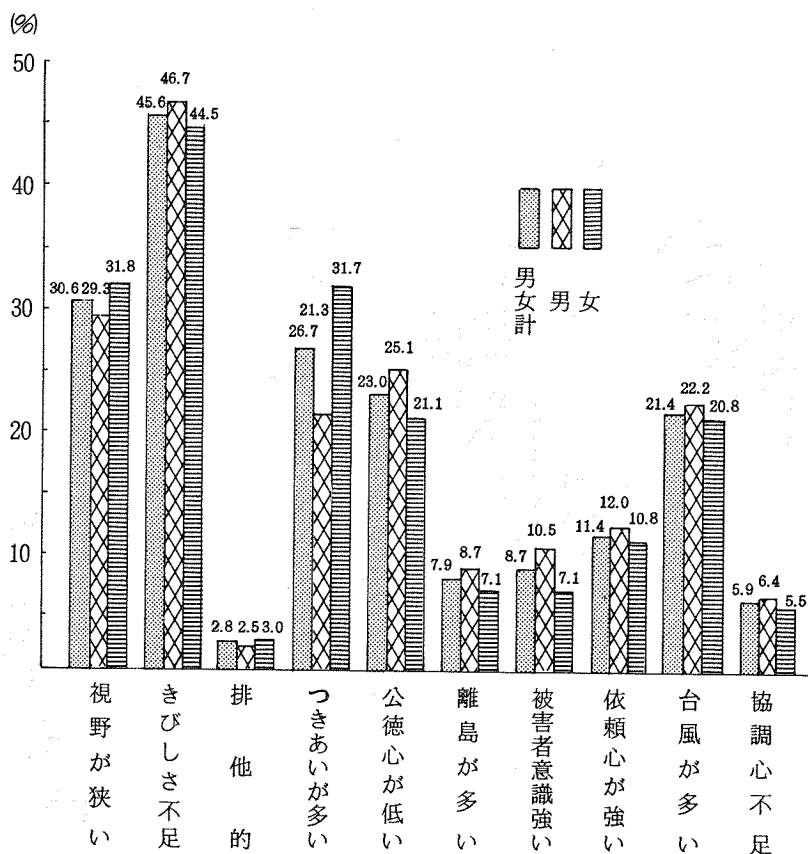
事項	県外居住経験の有無		県外居住経験有り						県外居住経験無し					
			男女計		男		女		男女計		男		女	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合		
人情が厚い	672	43.6	344	43.5	328	43.6	1,119	47.6	447	42.5	672	51.8		
素朴	227	14.7	106	13.4	121	16.1	282	12.0	143	13.6	139	10.7		
相互扶助	272	17.6	153	19.4	119	15.8	438	18.6	185	17.6	253	19.5		
青い海青い空	618	40.1	301	38.1	317	42.1	965	41.1	421	40.0	544	41.9		
国際的	21	1.4	10	1.3	11	1.5	30	1.3	17	1.6	13	1.0		
独特の文化	343	22.2	194	24.6	149	19.8	428	18.2	232	22.1	196	15.1		
のんびりしている	289	18.7	146	18.5	143	19.0	431	18.3	192	18.3	239	18.4		
気候が温暖	524	34.0	265	33.5	259	34.4	743	31.6	344	32.7	399	30.7		
進取の気性	8	0.5	4	0.5	4	0.5	14	0.6	8	0.8	6	0.5		
開放的	33	2.1	17	2.2	16	2.1	68	2.9	30	2.9	38	2.9		
その他	2	0.1	2	0.3	—	—	14	0.6	10	1.0	4	0.3		
わからない	63	4.1	30	3.8	33	4.4	125	5.3	56	5.3	69	5.3		
無答	14	0.9	8	1.0	6	0.8	43	1.8	19	1.8	24	1.8		
計	1,543	200.0	790	200.0	753	200.0	2,350	200.0	1,052	200.0	1,298	200.0		

## 2 沖縄県（民）の短所

沖縄県あるいは沖縄県民の長所は、1位「人情が厚い」、2位「青い海青い空」、3位「気候が温暖」であったが、逆に沖縄県あるいは沖縄県民の短所は何であるか、10項目から選んでもらった結果は、1位「きびしさ不足」（45.6%）、2位「視野が狭い」（30.6%）、3位「つきあいが多」（26.7%）、4位「公德心が低い」、5位「台風が多い」となっている。また、「協調心不足」9位（5.9%）、「排他的」10位（2.8%）については沖縄県民の短所とみている人は少ない状況にある。

次に男女別にみると、男女とも1位「きびしさ不足」、2位「視野が狭い」となっているが、その見方は「きびしさ不足」については男子がいくぶん多く、「視野が狭い」については逆に女子がいくぶん多い。また、3位以下については、男子は3位「公德心が低い」、4位「台風が多い」、5位「つきあいが多」となっているが、女子は3位「つきあいが多」、4位「公德心が低い」、5位「台風が多い」となり、男女間で差がみられる。このことを割合でみると、「つきあいが多」については男子の21.3%に対し、女子は31.7%と相当多く、また「公德心が低い」は男子25.1%、女子21.1%、「台風が多い」は男子22.2%、女子20.8%とこの2者については男子が多い。その他、「依頼心が強い」、「被害者意識が強い」、「離島が多い」、「協調心不足」についても男子の見方がいくぶん多い状況にある。

県（民）の短所

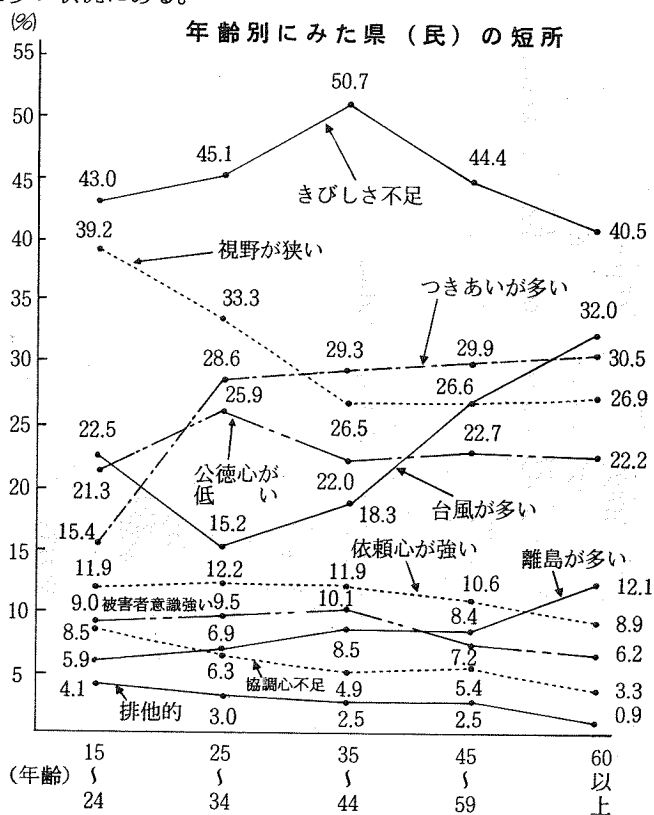




次に年齢別にみると、各年齢とも「きびしさ不足」が第1位となっているが、その見方は年齢によって相当の差がみられる。即ち、「きびしさ不足」とみている人の割合は、15～24歳 43.0%、25～34歳 45.1%、35～44歳 50.7%、45～59歳 44.4%、60歳以上 40.5%と35～44歳を中心に年齢が低下あるいは増加するに伴って減少する傾向がみられ、中年層ほど「きびしさ不足」とみる人が多い状況にある。

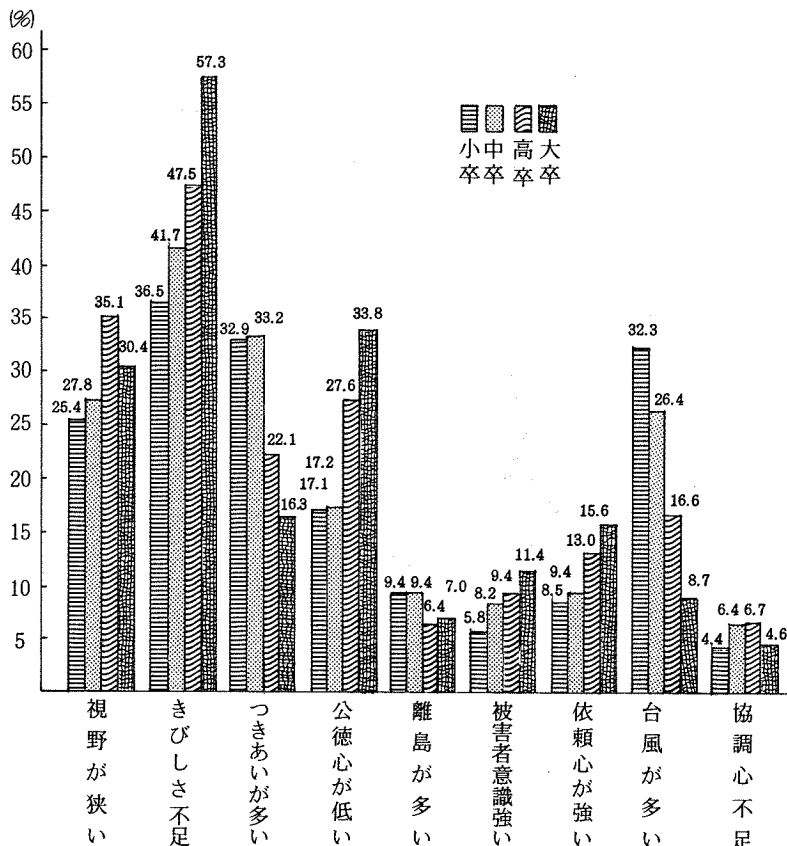
また、2位以下については順位についても年齢によって変化がみられる。第2位については15～24歳、25～34歳が「視野が狭い」、35～44歳、45～59歳が「つきあいが多い」、60歳以上が「台風が多い」、第3位については15～24歳が「台風が多い」、25～34歳、60歳以上が「つきあいが多い」、35～44歳が「視野が狭い」、45～59歳は「視野が狭い」と「台風が多い」が同率で並んでいる。

次に割合でみると、「視野が狭い」については35歳以上の各年齢層においては26%台であるが、25～34歳では33.3%、15～24歳では39.2%となり、「視野が狭い」とみる人は若年層において多い状況にある。「つきあいが多い」については25歳以上の各年齢層においては28～30%台に分布しているが、15～24歳は15.4%で、「つきあいが多い」が短所とみる人は若年層においては相対的に少ない。「台風が多い」については、60歳以上では32.0%となっているが、25～34歳は15.2%、35～44歳は18.3%で「台風が多い」が短所とする見方は青壮年層において相対的に少ない。その他、「依頼心が強い」、「被害者意識強い」、「協調心不足」、「排他的」とみる人の割合は高年層より若年層において相対的に多く、逆に「離島が多い」については高年層において多い状況にある。



次に学歴別にみると、各学歴とも「きびしさ不足」を第1位としているが、その割合は小卒の36.5%から学歴が上にいくにしたがって増加し、大卒では57.3%と極めて多く、高学歴ほど「きびしさ不足」に対する見方は厳しい状況にある。第2位については小卒と中卒は「つきあいが多い」となっているが、高卒は「視野が狭い」、大卒は「公德心が低い」、また第3位については小卒は「台風が多い」、高卒は「公德心が低い」、中卒と大卒が「視野が狭い」となっている。これらのことを割合でみると、「視野が狭い」については高卒が35.1%と最も多く、順位も2位であったが、小卒は25.4%（4位）、中卒は27.8%（3位）となり、小中卒は高年齢者が多いこともあってか「視野が狭い」とみる人の割合は相対的に少ない。「つきあいが多い」、「公德心が低い」については学歴によって相当の差がみられ、「つきあいが多い」は低学歴、「公德心が低い」は高学歴において短所とする見方が相対的に極めて多い状況にある。「台風が多い」のが短所とする見方は「きびしさ不足」とは逆の方向で高学歴ほど少なく、しかもその割合は小卒の32.2%に対し大卒は8.7%、また順位でも小卒が3位であるのに対し、大卒は7位というようにその見方に大きな開きがあることを示している。その他、「依頼心が強い」「被害者意識が強い」とする見方は低学歴より高学歴において多い状況にある。

学歴別にみた県（民）の短所

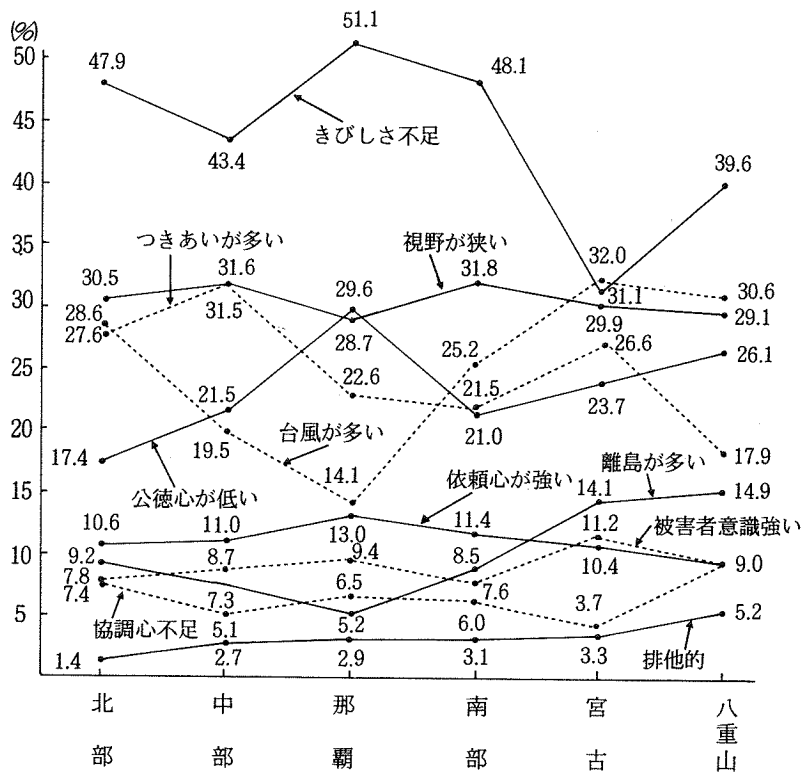


注) 「排他的」は小卒3.1%、中卒1.4%、高卒2.7%、大卒7.0%である。

次に地区別にみると、北部、中部、那覇、南部、八重山においては「きびしさ不足」が第1位となっているが、宮古においては「台風が多い」が「きびしさ不足」を上回って第1位となり、他の地区とは異なる状況にある。また、「きびしさ不足」とみる割合が最も多いのは那覇で51.1%、宮古は31.1%と相対的に少ない状況にある。

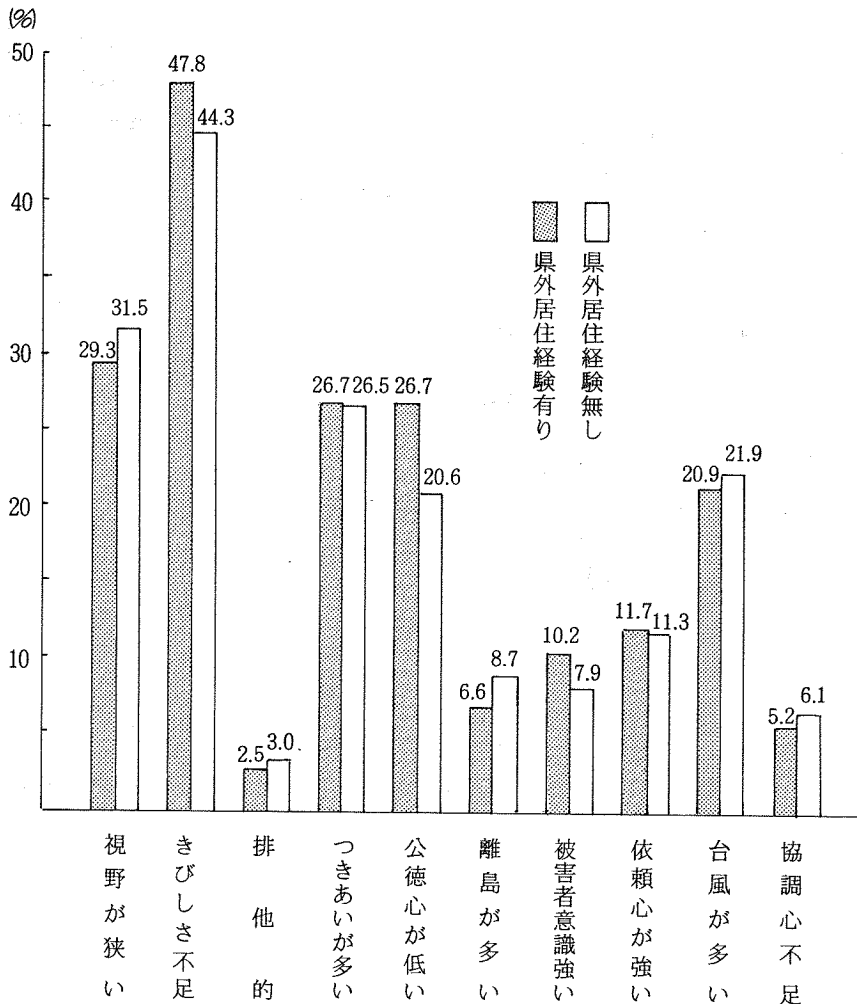
第2位については北部と南部は「視野が狭い」、中部は「つきあいが多い」、那覇は「公德心が低い」、宮古は「きびしさ不足」、八重山は「台風が多い」となっている。第3位については北部と南部は「台風が多い」、その他の地区はともに「視野が狭い」となっている。このことを割合でみると、「視野が狭い」についてはあまり変動はなく、中部の31.5%から八重山の29.1%の間に分布している。「つきあいが多い」については中部の31.6%（2位）に対し、八重山は17.9%（5位）と地区間で見方に相当の差がある。「公德心が低い」についても「つきあいが多い」と同様、地区間で相当の差がみられ、那覇が29.6%（2位）と最も多く、北部が17.4%（5位）と最も少ない状況にある。「台風が多い」については離島をかかえる地区とそうでない地区では見方に大きな開きがあり、那覇は14.1%（5位）であるが宮古32.0%（1位）八重山30.6%（2位）、北部28.6%（3位）、南部も25.2%（3位）と相対的に多い。また、「離島が多い」ことが短所であるとする見方も「台風が多い」と同様、先島地区において多い。

地区別にみた県（民）の短所



最後に県外居住の経験の有無別にみると、県外居住の経験の有無を問わず、「きびしさ不足」が第1位となっているが、その割合は経験有が47.8%、経験無が44.3%といくぶん県外に居住した経験のある人の見方が多い。また、第2位についてはともに「視野が狭い」となっているが、第3位については経験有が「公德心が低い」に対し、経験無は「つきあいが多い」となっている。なお、「つきあいが多い」については経験有の場合は順位としては第4位であるが、割合は26.7%と経験無の26.5%（3位）とほぼ同じである。「公德心が低い」については経験無の20.6%（5位）に対し経験有は26.7%（3位）と県外に居住した経験のある人の見方が多く、また、この項目は10項目の中で両者の開きが最も大きい項目となっている。

県（民）の短所（県外居住経験の有無別）



県（民）の短所

(単位：人，%)

性別 事項	男女計		男		女	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合
視野が狭い	1,231	30.6	561	29.3	670	31.8
きびしさ不足	1,831	45.6	895	46.7	936	44.5
排他	112	2.8	48	2.5	64	3.0
つきあいが多い	1,074	26.7	408	21.3	666	31.7
公德心が低い	924	23.0	480	25.1	444	21.1
離島が多い	317	7.9	167	8.7	150	7.1
被害者意識強い	351	8.7	202	10.5	149	7.1
依頼心が強い	458	11.4	230	12.0	228	10.8
台風が多い	862	21.4	425	22.2	437	20.8
協調心不足	237	5.9	122	6.4	115	5.5
その他	60	1.5	34	1.8	26	1.2
わからない	440	10.9	195	10.2	245	11.6
無答	141	3.5	63	3.3	78	3.7
計	4,019	200.0	1,915	200.0	2,104	200.0

注) 2項目選択のため、実数の内訳は計の2倍となっている(以下同じ)。

年齢別にみた県（民）の短所

(単位：人，%)

年齢 事項	15～24歳		25～34歳		35～44歳		45～59歳		60歳以上	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
視野が狭い	300	39.2	323	33.3	265	26.5	252	26.6	91	26.9
きびしさ不足	329	43.0	437	45.1	508	50.7	420	44.4	137	40.5
排他	31	4.1	29	3.0	25	2.5	24	2.5	3	0.9
つきあいが多い	118	15.4	277	28.6	293	29.3	283	29.9	103	30.5
公德心が低い	163	21.3	251	25.9	220	22.0	215	22.7	75	22.2
離島が多い	45	5.9	67	6.9	85	8.5	79	8.4	41	12.1
被害者意識強い	69	9.0	92	9.5	101	10.1	68	7.2	21	6.2
依頼心が強い	91	11.9	118	12.2	119	11.9	100	10.6	30	8.9
台風が多い	172	22.5	147	15.2	183	18.3	252	26.6	108	32.0
協調心不足	65	8.5	61	6.3	49	4.9	51	5.4	11	3.3
その他	16	2.1	21	2.2	8	0.8	10	1.1	5	1.5
わからない	95	12.4	89	9.2	117	11.7	102	10.8	37	10.9
無答	36	4.7	26	2.7	29	2.9	36	3.8	14	4.1
計	765	200.0	969	200.0	1,001	200.0	946	200.0	338	200.0

学歴別にみた県（民）の短所

事項 \ 学歴	小 卒		中 卒		高 卒		大 卒	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
視野が狭い	132	25.4	363	27.8	511	35.1	160	30.4
きびしさ不足	190	36.5	545	41.7	690	47.5	302	57.3
排 他 的	16	3.1	18	1.4	39	2.7	37	7.0
つきあいが多い	171	32.9	433	33.2	322	22.1	86	16.3
公德心が低い	89	17.1	225	17.2	401	27.6	178	33.8
離島が多い	49	9.4	123	9.4	93	6.4	37	7.0
被害者意識強い	30	5.8	107	8.2	137	9.4	60	11.4
依頼心が強い	44	8.5	123	9.4	189	13.0	82	15.6
台風が多い	168	32.3	345	26.4	241	16.6	46	8.7
協調心不足	23	4.4	84	6.4	97	6.7	24	4.6
そ の 他	7	1.3	14	1.1	24	1.7	11	2.1
わ か ら い	86	16.5	172	13.2	134	9.2	21	4.0
無 答	35	6.7	60	4.6	30	2.1	10	1.9
計	520	200.0	1,306	200.0	1,454	200.0	527	200.0

地区別にみた県（民）の短所

(単位：人，%)

地区 事項	北 部		中 部		那 覇 市		南 部		宮 古		八 重 山	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
視 野 が 狭 い	149	30.5	508	31.5	128	28.7	206	31.8	72	29.9	39	29.1
き び し さ 不 足	234	47.9	700	43.4	228	51.1	312	48.1	75	31.1	53	39.6
排 他 的	7	1.4	44	2.7	13	2.9	20	3.1	8	3.3	7	5.2
つ き あ い が 多 い	135	27.6	510	31.6	101	22.6	139	21.5	64	26.6	24	17.9
公 徳 心 が 低 い	85	17.4	347	21.5	132	29.6	136	21.0	57	23.7	35	26.1
離 島 が 多 い	45	9.2	117	7.3	23	5.2	55	8.5	34	14.1	20	14.9
被 害 者 意 識 強 い	38	7.8	140	8.7	42	9.4	49	7.6	27	11.2	12	9.0
依 頼 心 が 強 い	52	10.6	178	11.0	58	13.0	74	11.4	25	10.4	12	9.0
台 風 が 多 い	140	28.6	315	19.5	63	14.1	163	25.2	77	32.0	41	30.6
協 調 心 不 足	36	7.4	83	5.1	29	6.5	39	6.0	9	3.7	12	9.0
そ の 他	3	0.6	35	2.2	8	1.8	4	0.6	1	0.4	1	0.7
わ か ら な い	39	8.0	190	11.8	47	10.5	80	12.3	26	10.8	11	8.2
無 答	15	3.1	59	3.7	20	4.5	19	2.9	7	2.9	1	0.7
計	489	200.0	1,613	200.0	446	200.0	648	200.0	241	200.0	134	200.0

県外居住経験の有無別にみた県（民）の短所

(単位：人，%)

県外居住 経験の有無 事項	県 外 居 住 経 験 有 り						県 外 居 住 経 験 無 し					
	男 女 計		男		女		男 女 計		男		女	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
視 野 が 狭 い	452	29.3	230	28.9	222	29.6	742	31.5	315	29.8	427	32.8
き び し さ 不 足	738	47.8	379	47.7	359	47.9	1,044	44.3	486	45.9	558	42.9
排 他 的	39	2.5	16	2.0	23	3.1	70	3.0	30	2.8	40	3.1
つ き あ い が 多 い	412	26.7	170	21.4	242	32.3	625	26.5	221	20.9	404	31.1
公 徳 心 が 低 い	413	26.7	225	28.3	188	25.1	486	20.6	240	22.7	246	18.9
離 島 が 多 い	102	6.6	64	8.1	38	5.1	205	8.7	101	9.5	104	8.0
被 害 者 意 識 強 い	157	10.2	105	13.2	52	6.9	186	7.9	93	8.8	93	7.2
依 頼 心 が 強 い	181	11.7	105	13.2	76	10.1	267	11.3	119	11.2	148	11.4
台 風 が 多 い	322	20.9	169	21.3	153	20.4	517	21.9	243	23.0	274	21.1
協 調 心 不 足	81	5.2	40	5.0	41	5.5	143	6.1	73	6.9	70	5.4
そ の 他	31	2.0	17	2.1	14	1.9	27	1.1	17	1.6	10	0.8
わ か ら な い	121	7.8	58	7.3	63	8.4	304	12.9	129	12.2	175	13.5
無 答	39	2.5	12	1.5	27	3.6	100	4.2	49	4.6	51	3.9
計	1,544	200.0	795	200.0	749	200.0	2,358	200.0	1,058	200.0	1,300	200.0

## 第5節 総合満足度

### 〈市町村別概要〉

総合満足度のうち、個人に関する事項（社会的地位、受けた教育、くらし向きなど）を除いた14の項目について市町村別の差異をみていくことにする。

14の項目とは、①保健・医療、②教育、③文化、④雇用・労働、⑤住宅、⑥快適、⑦利便、⑧安全、⑨所得・消費、⑩余暇、⑪法・犯罪、⑫家族、⑬社会福祉、⑭地域活動である。

一番満足度が高いのは⑫家族であって、粟国村、伊良部町を除くすべての市町村でトップである。粟国村では⑦利便に次いで伊良部町でも⑤住宅に次いで2位であり、⑫家族に関する事項は、地域的にみても全く差異がない。

次に満足度が高いのは⑤住宅で21市町村で2位となっている。ただし、これは北部や南部の農村地域、先島、離島村が大部分で、都市部では、当然であるが低い。那覇市は12位（下から3位）、浦添市7位、沖縄市9位等不満が高くなっている。

また、⑧安全も離島部では概して満足度が高いが、地域差があって、伊是名村、上野村では9位とかなり不満が高くなっている。

不満が高い方をみると、やはり⑨所得消費をトップに上げる市町村が多く24市町村、次いで④雇用労働22市町村となる。⑨は全体的だが、④は主に中南部都市圏で、不満がトップになっている。

項目毎に、不満がトップの市町村をみていくと、①保健医療では、不満第1位の村が4村、仲里村、南大東村、北大東村、多良間村となっている。②の教育では与那国町の不満3位が最高で、4位が本部町、恩納村、伊是名村、石川市、具志川市、北大東村であった。③の文化は満足度が高く、粟国村、竹富町の不満5位が最高であった。④の雇用労働は、前述のように、中南部の都市で1位の不満となっており、⑤の住宅は、那覇市で不満3位とトップにある。⑥の利便は大里村が不満2位、次いで玉城村と北大東村で不満3位となっている。本島南部では、南風原町、佐敷町が満足2位でトップとなっており、地域差が大きい。⑦の快適は北部、先島で満足が高い一方、中部の嘉手納町では不満トップで、基地公害の影響が反映している。⑧の安全については、前述したとおりであるが、詳しくみると、浦添市、北中城村など、郊外部で不満が高いようである。⑨の消費生活は、前述のとおりほとんどの市町村で不満トップである。⑩余暇は、むしろ地方部で不満が高く、伊良部、与那国町でトップである。⑪犯罪と法は、不思議なことに東村、伊是名村、西原町で不満2位となっている。観念的部分が多いのだろうか。⑬社会福祉は、不満が高い割には、特徴がない。不満3位の市町村が8ある。⑭地域活動は、渡嘉敷村、次いで座間味村、知念村、伊良部町で不満が高い結果となった。過去と現在の比較によるものだろうか。



市町村別総合満足度順位表

項目 市町村	1 健 康	2 教 育	3 文 化	4 労 働	5 住 宅	6 利 便	7 快 適	8 安 全	9 消 費 生 活	10 余 暇	11 犯 罪 と 法	12 家 族	13 社 会 福 祉	14 地 域 活 動
県計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
国頭村	11	9	6	13	2	5	2	8	14	12	10	1	7	3
大宜味村	12	4	2	11	4	10	9	3	14	13	7	1	8	6
東村	11	9	7	10	3	8	2	5	14	12	13	1	6	4
今帰仁村	9	8	5	14	2	7	4	3	13	10	11	1	12	6
本部町	12	11	6	14	8	5	4	2	13	10	7	1	9	3
名護市	13	9	6	12	5	3	2	4	14	8	11	1	10	7
恩納村	9	11	4	13	3	7	2	6	14	8	10	1	12	5
宜野座村	10	4	9	13	3	7	6	2	14	11	12	1	5	8
金武町	11	10	4	13	5	7	8	9	14	2	12	1	6	3
伊江村	13	7	6	14	2	5	3	8	12	9	10	1	11	4
伊平屋村	12	9	6	13	3	11	5	4	14	9	7	1	2	8
伊是名村	7	11	8	12	2	6	5	9	14	10	13	1	4	3
石川市	6	11	3	14	7	5	8	8	13	10	12	1	4	2
与那城村	11	6	2	13	10	8	7	4	14	5	12	1	9	3
勝連町	6	5	4	13	3	6	9	12	14	10	11	1	8	2
具志川市	10	11	4	14	5	2	8	7	13	6	9	1	12	3
冲縄市	7	5	4	14	9	3	8	12	13	6	11	1	10	2
読谷村	10	6	4	14	2	7	5	8	13	9	12	1	11	3
嘉手納町	10	4	3	12	6	5	14	11	13	9	8	1	7	2
北谷町	10	6	7	14	2	3	9	8	13	4	11	1	12	5
北中城村	9	8	2	14	4	11	6	12	13	5	10	1	7	3
中城村	9	5	4	14	2	11	7	6	13	10	8	1	12	3
宜野湾市	11	6	3	14	5	4	8	9	13	7	12	1	10	2
西原町	10	8	3	14	2	9	7	4	10	5	13	1	10	5
浦添市	6	5	2	14	7	4	8	12	13	9	10	1	11	3
那覇市	6	8	2	14	12	3	7	9	13	5	10	1	11	4
豊見城村	4	9	2	13	8	10	3	7	14	5	12	1	11	6
糸満市	11	10	2	14	6	7	5	12	13	4	8	1	9	3
東風平町	12	10	4	13	2	3	8	7	14	5	11	1	9	5
具志頭村	10	6	4	13	3	8	2	6	14	8	11	1	12	5
玉城村	11	6	4	14	2	12	5	6	13	9	10	1	6	3
知念村	8	5	6	13	2	4	6	3	14	12	9	1	11	10
佐敷町	8	5	3	13	3	2	6	11	14	9	12	1	9	7
与那原町	8	6	2	13	3	4	11	11	14	4	10	1	9	7
大里村	5	3	7	14	2	13	4	8	11	9	11	1	10	5
南風原町	9	8	6	14	3	2	4	10	13	7	11	1	12	5
仲里村	14	4	5	12	2	6	7	8	13	10	9	1	11	3
具志川村	13	9	8	11	2	4	3	5	14	6	9	1	11	7
渡嘉敷村	12	5	8	14	9	11	4	2	12	6	6	1	10	3
座間味村	12	5	8	14	4	9	1	3	13	11	5	2	5	10
粟国村	6	3	10	13	2	4	6	5	14	12	9	1	8	11
渡名喜村	3	6	7	12	2	5	8	4	14	13	9	1	9	9
南大東村	14	11	9	12	4	10	7	3	13	8	5	1	6	2
北大東村	14	10	8	9	2	12	5	7	13	3	11	1	3	6
平良市	9	8	7	13	2	3	5	4	14	11	12	1	10	6
城辺町	10	9	4	14	2	8	3	4	13	12	11	1	7	6
下地町	11	4	7	13	6	4	1	3	14	12	10	1	8	9
上野村	6	10	7	13	2	4	3	9	14	7	12	1	11	5
伊良部町	9	7	8	13	1	3	4	5	12	14	11	2	6	10
多良間村	14	8	5	13	3	8	4	2	12	8	11	1	7	5
石垣市	11	8	3	13	2	7	4	6	14	10	9	1	12	5
竹富町	13	4	10	14	2	9	3	5	12	11	6	1	8	7
与那国町	5	12	3	10	5	5	5	2	13	14	11	1	3	9

## 第6節 生活標準の数量化分析(Ⅲ類)

### 〈希望のパターン分析〉

生活標準として19種類の項目について希望するとした内容のパターン分析を行った。図で見ると第Ⅰ軸は、希望の高さを、第Ⅱ軸は内心の希望の高さを表しているようである。

したがって第Ⅰ象限にある、1. 食べるのに困らない暮らし、2. 十分な貯金、4. 老後の貯え、10. 安定した仕事、16. 老後の仕事、17. 親と子供夫婦が仲良く、の6項目は、名実ともに県民が希望しているくらいということになる。第Ⅱ軸がわずかにマイナスとなっているが8. 自分の家、11. 子供の学校教育、18. 多くの友達をもつ、もほぼこれに近いといえよう。

逆に第Ⅲ象限にある 3. 高級住宅地に住む、5. 家具・電気器具をそろえる、6. 一寸したおしゃれ、9. 一人一室、12. 子供に習い事、13. 家族旅行については、名実ともにそれほど希望していないといえる。特に19. ゴルフ・テニスについては、ほとんど興味を示していない。

第Ⅱ象限にある15. 通勤・通学の利便は、一応希望するが、内心はそれほどでもないといったところで、第Ⅳ象限にある14. 海外旅行は、内心では非常に希求していることになる。また、7. 高級家具も内心では希望が高い。

海外旅行の内実の願望の高さは本県が海外に近いことや、海外に親戚などを持っていることにもよるのであろう。

次に希望しないが、既に達成しているとしたものを、(潜在的に)希望しているとみなして、希望すると合計したものをパターン分析(希望の修正)でも(図2)傾向は余りかわらない。4. 老後のたくわえが最も希望が高くなったこと、8. 自分の家が第Ⅰ象限に変わり、反対に17. 親と子供が仲良くが第Ⅱ象限に入ったこと、また、15. 通勤・通学の利便はⅡ→Ⅲへ移動したこと、その他、3. 高級住宅地がⅢ→Ⅳに移動し、7. 高級家具がⅣからⅢへ動いたのが、変化した部分である。

図1 希望のパターン分類

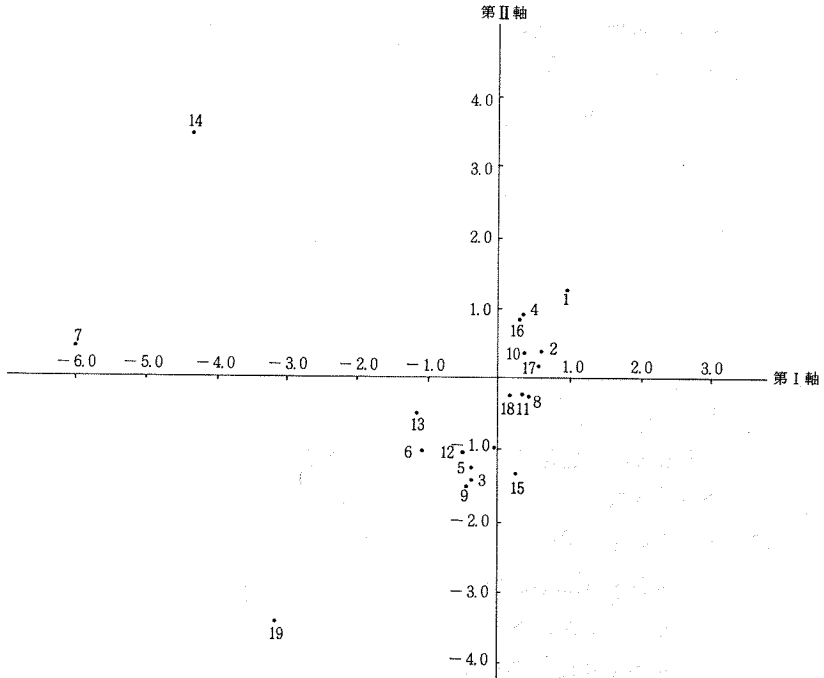


図2 希望のパターン分析 (仮定)

